

一九世紀末から

二〇世紀半ばまでの

約八〇年間、性と生殖の

自己決定権をめぐる運動、

民衆にも深く浸透した

優生思想、性・生殖管理と

結びついた人口政策、

そして性問題を近代の

光で照射しようとした

性科学……

性と生殖をめぐる

繰り広げられたさまざまな

動きを、約五〇〇〇点の書籍・

パンフレット・公文書など

貴重資料であとづける

初の資料集成！

Reproductive Rights and Sexuality in Modern Japan, 1875-1953



〔編集復刻版〕

性と生殖の 人権問題

資料集成
八七五―一九五三

全三十五巻・別冊一

完結

編・解説―産児調節運動編／萩野美穂（大阪大学）

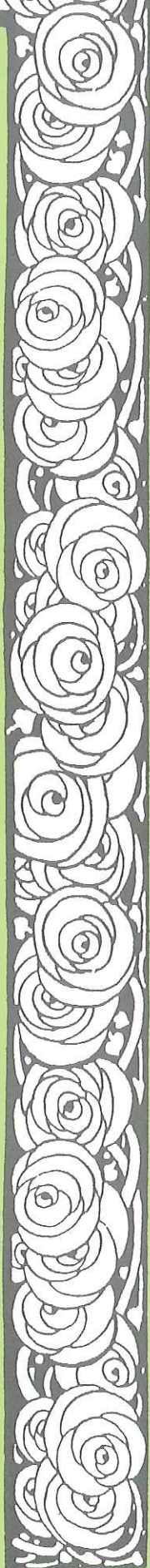
優生問題・人口政策編／松原洋子（立命館大学）

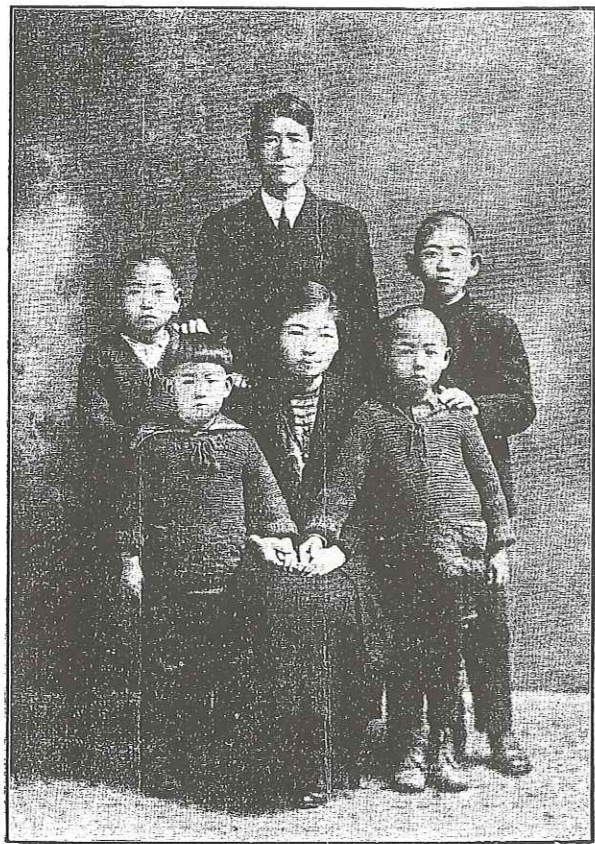
性科学・性教育編／斎藤光（京都精華大学）

A4判／上製／総二万二五〇ページ

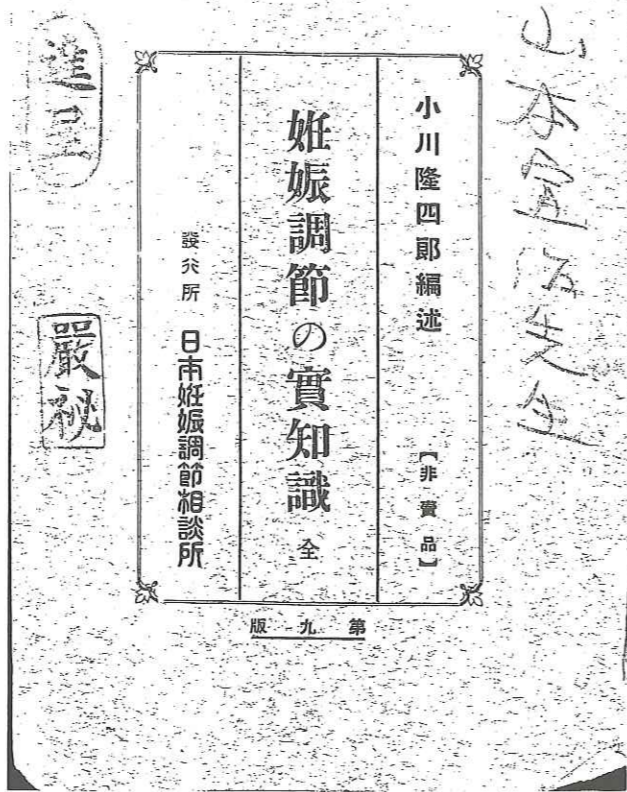
揃定価―本体八七万五〇〇円＋税

不出版





家庭の者著るたれさ節調
【歳五十三婦主てしに歳七子幼最】



小川隆四郎編述

【非賣品】

妊娠調節の實知識

全

發行所 日南妊娠調節相談所

第一九一版

内容目次

性と生殖の人権問題資料集成

刊行にあたって

女性が子どもをいつどのくらい産むかあるいは産まないかは、女性の人生はもちろんだ、その家族など周囲の命運をも左右する重大な問題である。しかし明治維新以来、近代日本はその性と生殖に関する自由、権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)を、家制度をして公娼制度や墮胎罪によってきびしく管理・統制してきた。人工妊娠中絶はおろか避妊もまた風俗壊乱という理由あるいは有害避妊器具取締法によって取締りの対象となっていたのである。もともと、戦前が一定して弾圧の時代であり、戦後は中絶も自由、優生思想から自由な時代であったわけではない。戦前期には、ひとびとの生活が困窮を極めるとその根拠を人口過剰とした政府は、産児制限を認める方向に動き、それが大正デモクラシー期から始まった産児調節運動の大きなうねりと交錯した時期もあった。しかしその動きは日中戦争突入を契機とする新植民地の開拓によって押さえ込まれてしまう。

また一九二〇年代に日本に移入されて以来、新興科学として脚光を浴びた優生学は、スラムや遊廓の周辺につくられた民間の産児調節相談所すら「優生相談所」のようにその名が冠されたほど浸透し、ついには国民優生法(一九四〇年)に結実を見る。また戦後も優生思想は受け継がれ、優生保護法(一九四八年)では「不良な子孫の出生を防止する」という名目でハンセン病患者や遺伝性疾患患者、精神障害者などに対する不妊手術・中絶をとくに認め、しばしば強制的な措置すらとられたように、優生策がむしろ強化されていた。女性にとつて「中絶の自由化」と読み替えられがちな優生保護法の実体はこのようなものであり、墮胎罪が存在し続ける以上、条件付きの中絶が許されているにすぎないのであつて、性と生殖の自己決定からはほど遠いものであつた。

本資料集成は、切実にバース・コントロールを望んでいたひとびとがどのような運動を展開し、今でいうリプロダクティブ・ヘルス/ライツを追求したのか、そして優生思想にどう向き合っていたか、国家は性と生殖をいかに管理・統制しようとしたのか、また性教育や性科学がひとびとの思想や実践といかに切り結んできたのか、その実像に迫ろうとするものである。

したのか、また性教育や性科学がひとびとの思想や実践といかに切り結んできたのか、その実像に迫ろうとするものである。

性と生殖をめぐるさまざまな動きを総体的にとらえるために、一九世紀末から一九五三年(優生保護法の形が定まった五年改正の翌年)であり、日本家族計画連盟創立の前年)までの関連資料を収集・厳選し、約五〇〇点を編集復刻する。編集にあたっては、「産児調節運動編」「優生問題・人口政策編」「性科学・性教育編」に分け、それぞれ荻野美穂・松原洋子・齋藤光各氏に編集・解説についてご協力をいただいたが、これらは便宜上の区分けに過ぎないので、性と生殖に関する資料集として三編を併せて活用されることを期待するものである。

優生保護法から優生条項を除いて施行された母体保護法、そしてなお胎児条項や生殖技術の進展に揺れる現在のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの問題を見据える上での重要文献となることを確信する。——不二出版編集部

〈内容〉

第1巻、第14巻——産児調節運動編1〜14

うち13、14巻は雑誌編

第15巻、第26巻——優生問題・人口政策編1〜12

第27巻、第35巻——性科学・性教育編1〜9

別冊——解説(荻野美穂・松原洋子・齋藤光)・総目次・索引

*本資料集成は、近現代日本の性と生殖に関する資料のうち、一八七五年から一九五三年までの時期に刊行された書籍(チラシ・リーフレットのほか公文書、研究資料等)を中心に収集し、編集復刻したものである。

*復刻にあたっては、原資料を適宜縮小し、原則として復刻版ページにつき四面ないし二面を収載した。

謹んで本書を予をして妊娠調節の重要な運動に従事する事を得せしめ給ひし予が尊敬する
東京平民病院長加治時次郎先生に捧ぐ

大正十三年十月下浣

再版に際して

小川隆四郎

讀者に告ぐ

編者

性慾は食慾と全く萬人の普有性であるから、之が他人に知れたらからして恥づべきではないのである。故に此に就て研究する事は別に他人に秘す必要はない。古來人が性慾を語るを恥づべき事とし、此事に無智なりし結果は人種を墮落せしめ、今日の如き愚鈍に對し抵抗なき弱くして又た醜態の者となつたのである。抑も此書は性慾問題の緊要なる部分を語るものであるから、人は眞面目の心を以て人類の一義務として讀まねばならないのである。

其二

佛人は兩親二兒主義に相であるが、其れでは國家の不幸事を考へた場合少々危険である。今我國の人口は六千五百萬であるから、國民の平均生命を五十年と見て兩親が三人産子を持つ時は、二人にて一人宛人口を減らし、少くとも五十年間に三千二百五十萬人の増殖を見る事となる。(六千五百萬人の數も停止してゐるのではなから實際は此れ以上の増殖)之は一ヶ年としては六十萬人強で、丁度我國現在の増殖率である。一ヶ年六十萬人の増殖は多きに過ぎ吾人のよしと思ふ所は十五萬内外位の所であるから、これだけ増殖せば大概の不幸が隨んでも大丈夫である。子供の出來ない人もある事故、實際としては兩親にして平均三人或は二人を持たねば丁度十五萬位の増殖となる事と思ふ。國民は増殖の標準を持つべきである故に斯く言ふ。

●推薦のことは五十音順

フェミニズムと優生学との接点 市野川容孝

（東京大学教授）

「社会学徒にすぎぬ私が言うのも、おこがましい限りだが、しかし、歴史研究は二つのことを心がけなければならないと思う。第一に、さまざまな意味での両義性に耐え抜くこと。日本に限らず、一九世紀後半以降のバース・コントロール運動は、子どもを産むか産まないか、いつ産むのかについて、つまりは自らの身体そのものにおいて、女性たちが主体性を確立することを目指していた。それはフェミニズムの歩みと不可分の関係にある。しかし同時に、それは性と生殖の「医療化」と深く連動しており、国家レベルの人口政策（優生学その他）とさまざまな局面で接点をもっていた。こうした両義性にきちんと向き合うこと、自分にとって都合の悪い事実（M・ヴェーバー）に身を開きつづけること、歴史研究の「客観性」がありうると思えば、それはこうしたことなしには不可能だろう。第二に、過去を現在の問題として考えること。本資料集成は間違いなく、

日本の優生政策の成り立ちを再構成する上で不可欠のものとなる。だが、そうして明らかになる歴史は、私たちの現在にいくつもの課題を突きつけるだろう。本資料集成に収められた諸々の言説が直接、間接に正当化した実践（政策）によって、自らの身体を深く傷つけられた人びとと、私たちは今なお同じ社会に生きている。そうした人びとに対して、私たちは何をすべきなのか。そうした問いに、向き合わない歴史研究は、それ自身、一つの罪である。……（いちのかわやすたか）

大きな可能性を秘めた資料群

川村邦光

（大阪大学教授）

性、セクシュアリティをめぐる研究は最近にいたり、いよいよ盛んになっている。それは男女のセクシュアリティの自明視された「常識」に対する異議申し立て、そしてセクシュアリティの歴史の再解釈、構築として志向されていったが、現在進行している生殖テクノロジーの暴走への懸念、少子化対策に向けられた人口政策をめぐる言説に対する違和感、批判に対応しているのかもしれない。性と生殖の文化は政治と密接に結びついていることが共通の認識となってきたのである。セクシュアリティの歴史をたどるうえで、明治期をはじめとして、戦前の史料を探したずのはきわめて困難である。このたび復刻される『性と生殖の人権問題資料集成』では、産児調節運動編、優生問題・人口政策編、性科学・性教育編として、三部にわたって編集され、基本となる重要な資料がほとんどすべて網羅されて収められている。専門的および通俗的な書籍ばかりでなく、市や政府機関の調査報告書から、ビラやパンフレットの類にまでおよんでいる。これらの資料群をさまざまに接合させ、深くそして広く掘り下げていくことによつて、どのようなことを読みとり、どのような領域を切り開いていくことができるのか、おそらく大きな可能性を秘めていることはたしかだ。文化や歴史を解読し表現することが、状況として現前する現在へと介入していく営みであることにも気づかせてくれるのではなからうか。……（かわむら・くにみこ）



第1巻 産児調節運動編1～14

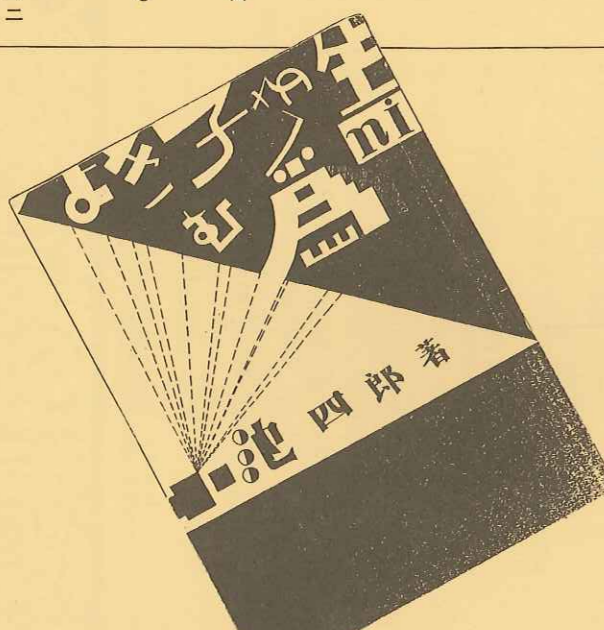
うち13・14巻は雑誌編

第15巻 第26巻 優生問題・人口政策編1～12
第27巻 第35巻 性科学・性教育編1～9

各巻内容一覧……資料名書名／編著者名発行所／発行年月

【第1巻】

- 一 懐妊避妊自在法全 編 平野助三／一八八〇・二
（智慧の庫第四十五号附録）
 - 二 子宝自在二造ル伝全（官許） 太田嘉三治／一八八二・四
 - 三 人工妊娠新術 訳 大野勝馬／一八九一・七
 - 四 社会改良実論全 小栗貞雄 賀来寛一郎／一九〇三・一〇
 - 五 子の有る法無い法 田村化三郎／一九〇八・七
 - 六 妊娠制限又ハ避妊玉「アトシア」 衛生局長 警保局長 回答ノ件 一九〇九・八
 - 七 産児制限論 鴨田脩治／一九一四・二
一名避妊の研究
 - 八 懐妊及避妊の秘訣 長谷川月嶺／一九一五・一〇
 - 九 尊属ニ対スル殺傷罪其ノ他ノ件 内務省警保局長 依命通牒（内務省秘第一八七七号） 一九一六・九
 - 一〇 妊娠及避妊の新研究 沢田順次郎／一九二一・四
 - 一一 日本パンフレット「第一号」 石本静枝／一九二一・八
新マルサス主義
 - 一二 産児調節論 マーガレット・サンガー 訳 奥俊貞
一九二二・二
- #### 【第2巻】
- 一三 家族制限法 マーガレット・サンガー／一九二二
 - 一四 産児制限と優生学 ハヴァロック・エリス
（世界パンフレット通信号外） 訳 弓家七郎／一九二二・四
 - 一五 産児制限と避妊 羽太詔治／一九二二・七
 - 一六 産児制限論を諸方面より観察して 石本静枝
（日本産児調節研究会叢書第一編） 一九二二・一〇
 - 一七 実際に於ける避妊 沢田順次郎／一九二二・二
及ビ産児制限の新研究 沢田順次郎／一九二二・二
（日本産児調節研究会叢書第六卷）
（日本産児調節研究会叢書第二編）
 - 一八 我が人口問題と産児調節論 石本恵吉／一九二二・二
（日本産児調節研究会叢書第一編）
 - 一九 「実行方法」を 京都産児制限研究会／一九二二



第2巻 今日日本で 実行可能で割に確かな法

産児制限研究会／一九二二

- 二〇 〔案内〕 産児制限研究会／一九二二
- 二一 生物学上より観たる産児調節論 松村松年
（日本産児調節研究会叢書第二編） 一九二二・三
- 二二 生物学上より観たる産児調節論（下） 松村松年
（日本産児調節研究会叢書第二編） 一九二二・三
- 二三 産児制限研究 野田君子／一九二二・五
（パンフレット第一編）
- 二四 趣意書 産児制限研究会／一九二二・五
- 二五 産児制限論 編 織田淑子／一九二二・六
（文化パンフレット第二十輯）
- 二六 文明の中核 マーガレット・サンガー 訳 石本静枝
一九二二・八

【第3巻】

- 二七 妊娠調節の実知識全 編 述 小川隆四郎／一九二四・八
- 二八 産児制限問題大講演会 一九二四・二
- 二九 よき子を産むために 小池四郎／一九二五・一
懐妊の調節に就て
- 三〇 産児調節大講演会 日本フエビアン協会／一九二五・二
- 三一 産児調節の理論と実際 小池四郎／一九二五・三
- 三二 産児制限大講演会 松阪社会思想研究会／一九二五・四
- 三三 〔入会案内〕 産児制限研究会／一九二五・五

【第4巻】

- 三四 産児制限の理論と実際 安部磯雄・馬島備／一九二五・五
（社会問題叢書V）
- 三五 性慾と産児制限学術大講演会 産児制限研究会
一九二五・二
- 三六 夫婦読本第二巻 越智真逸
バース・コントロール（産児制限の正しい知識） 一九二六・三
- 三七 食糧問題の解決として 述 杉山重義／一九二六・四
産児制限の価値
- 三八 中央産児調節相談所第拾回統計報告 小池四郎
一九二六・五
- 三九 中央産児調節相談所収支決算表 一九二六・五
- 四〇 応用優生学と妊娠調節 池田林儀／一九二六・九
- 四一 日本産児調節調査会設立主旨 一九二六・一〇
- 四二 多産地獄 真船清六／一九二六・一〇
附方法論（産児調節叢書）
- 四三 我国の産児制限運動の批判と予の提唱 曜峯義等
（学芸講演通信社パンフレットNo.38） 一九二七・一
- 四四 人口問題と産児制限 安部磯雄／一九二七・二
（農村問題叢書）
- 四五 妊娠調節の実際知識 根岸清治／一九二七・三
- 四六 産児調節の学理と実際 赤津誠内／一九二七・七
- 四七 欧米避妊方法批判 滝本二郎／一九二七・九
- 四八 妊娠・分娩・産児調節 山崎清・越智真逸／一九二七・一〇
（家庭科学体系60）
- 四九 妊娠調節と性の科学 野尻与野・布施亮／一九二七・二二
（家庭科学体系60）
- 五〇 愛国産児制限相談所の道案内 一九二八
- 五一 産児制限の可否 討論 紀平正美 安部磯雄
（朝日民衆講座第二輯） 一九二八・一
- 五二 妊娠調節の理論と実際 小曾戸菊水／一九二八・一〇
生活難の解決
- 五三 避妊の実行方法 M・サンガー 訳 山中静也
一九二八・一〇
- 五四 男女児自由に懐妊する法 久永運江／一九二九・三
- 五五 避妊乃研究 マリ・ストープス 訳 馬島備
一九二九・二〇
- 五六 〔回答〕 愛児女性協会／一九三〇
- 五七 産児調節論（春秋文庫31） 曜峯義等／一九三〇・一
- 五八 プロレタリア優生学調節 優生学研究会／一九三〇・五
妊娠衛生
- 五九 妊娠調節 優生学家庭相談 勝丸弘明／一九三〇・六
- 六〇 産児調節と避妊 馬島備／一九三〇・八
- 六一 妊娠調節の医学的知識 堤辰郎／一九三〇・二

第6巻

- 六三 〔賢同の呼びかけ〕 日本産児調節同盟／一九三二
六四 優生相談所案内 日本産児制限協会 一九三二・三
六五 産児調節の理論と実際 馬島備／一九三二・三
六六 多産の国論 名古屋長蔵／一九三二・四
六七 〔昭和三十二年四月二十八日地方長官會議抄〕 一九三二・四
六八 産児調節展覧會開催の趣意 産児調節評論社 一九三二
六九 産児調節婦人同盟趣意書 一九三二
七〇 産児調節婦人同盟規約(草案) 一九三二
七一 産児調節婦人同盟組織協議会順序 一九三二
七二 産児調節婦人同盟 産児調節婦人同盟組織準備会
七三 〔昭和三十二年五月十八日警察部長會議抄〕 一九三二・五
七四 産児制限無産者同盟組織方針書 一九三二・五
七五 〔産児調節展覧會への〕 産児調節評論社・上野松坂屋
七六 日本産児調節同盟宣言及規約 一九三二・六
七七 産児調節はなぜ大切か 日本産児調節同盟／一九三二
七八 第四回理事會報告 日本産児調節同盟／一九三二・六
七九 産児制限無産者同盟 産児制限無産者同盟組織準備会
八〇 産児制限無産者同盟 産児制限無産者同盟組織準備会
八一 無産者産児制限同盟規約 一九三二・六
八二 墮胎法改正期成會趣意書 一九三二・七
八三 無産者産児制限展覧會 労働者券 一九三二・七
八四 産児制限相談所取締二関スル概要 内務省 一九三二・八
八五 声明書(警視總監監宛) 日本産児調節同盟／一九三二・九

第9巻

- 一三〇 サンガー夫人伝と産児調節展覧 式場隆三郎 一九四七・四
一三一 産児制限の基礎的理論 新マルサス主義の概観 (人口問題研究所研究資料第十七号) 一九四七・六
一三二 産児調節運動に対する 日本産児調節同盟／一九四七・七
一三三 産児制限の解説 大島正雄／一九四七・七
一三四 請願 日本産児調節同盟／一九四七・九
一三五 産児制限問題概観 (人口問題研究所研究資料第十六号) 一九四七・一〇
一三六 産児制限実態調査結果の概観 (人口問題研究所研究資料第二号) 一九四七・一〇
一三七 人口過剰とその対策 北岡寿逸／一九四七・一〇
一三八 最新各種避妊実行政法詳説 岡田藤三・青柳善一郎 一九四七・一一
一三九 報告書 日本産児調節同盟本部 一九四七・一一
一四〇 安全確実妊婦調節の手引図説 竹田津六二 一九四七・一一
一四一 産院事件に対する声明 日本産児制限研究会／一九四八
一四二 第三回役員會御知らせ 日本産児調節同盟總務部 一九四八・二
一四三 産児制限の自由と 産児制限普及及会 一九四八・七
一四四 〔云のよびかけ〕 馬島備／一九四八・七
一四五 西多摩郡(青梅町・霞村)の 産児制限実態調査に関する集計結果表 一九四八・七 (人口問題研究所報告資料)
一四六 産児調節法(改訂再版) 中井博松 那須附成／一九四八・八
一四七 誰にも出来る産児調節の方法 述 馬島備 一九四八・〇
一四八 正しい受胎調節法(愛育の芽) 森山豊／一九四八・一〇
一四九 設立趣意書 日本優生保護協会 一九四八・一一
一五〇 産児制限普及及会の建議 産児制限普及及会／一九四八・一二
一五一 図解ベツサリ式 天野景康・天野文字 妊婦予防法教本 一九四八・一二
一五二 〔註文ハガキ〕 BCL西日本本部／一九四九
一五三 B.C.L. BCL西日本本部 (優生結婚と産児調節を指導する会 一九四九 (B.C.L.資料第一号))
一五四 北多摩郡全市町村の産児制限 厚生省人口問題研究所 実態調査に関する集計結果表 一九四九・三
一五五 避妊調査票 厚生省人口問題研究所／一九四九

第7巻

- 八六 墮胎法改正期成聯盟趣意書 産児制限普及及会 一九三二
八七 実地応用妊婦調節図解 竹田津六二／一九三二・一 避妊法・人工流産 推尾ひとし
八八 産児制限反対論 無産者経済要論 一九三二・二
八九 日本産児調節聯盟解消二関スル 一九三二・三 最後の理事會記事録其他
九〇 解消声明書 日本産児調節聯盟理事會／一九三二・三
九一 日本産児調節婦人同盟趣意書及規約 一九三二・五
九二 避妊及人工流産二関スル請願 産児制限普及及会 一九三二・五
九三 産児制限の話 述 西村辰男／一九三二・五 避妊の話
九四 無産者産児制限とは何か 無産者産児制限同盟 (B.C.L.リフレット第一輯) 一九三二・六
九五 妊婦と避妊の知識 編 山田秀次郎 子孫を得たい人々が出来るは困る人必読書 一九三二・七
九六 妊婦と制限 高橋寛／一九三二・七
九七 器具用品を要せぬ合法的避妊法 野瀬市郎 (近代生活叢書第一輯) 一九三二・一
九八 ブロBC供給品定価表 無産者産児制限同盟／一九三三
九九 加盟申込書 無産者産児制限同盟／一九三三
一〇〇 最も新しい大衆的避妊法 野尻与三／一九三三・四
一〇一 産児調節は出来るか 太田武夫／一九三三・五
一〇二 産児制限と避妊法 中尾吉吉／一九三三・九
一〇三 相談御案内 日本産児調節婦人同盟相談所／一九三四
一〇四 家庭の芽 野口与一／一九三四・一 妊婦調節の指針
一〇五 せち辛い世の中に 日本産児調節婦人同盟／一九三四・二
一〇六 本市に於ける優生相談所 大阪市社会部労働課 に関する資料(社会部報告第一八四号) 一九三四・三
一〇七 国策産児調節と性常識 横井春野／一九三四・三
一〇八 婦人ノ受胎期 荻野久作／一九三四・六 (未下産科婦人科叢書第九巻)
一〇九 不妊症の治し方 保坂孝雄／一九三六・二 (治し方叢書第一輯)
一一〇 産児調節の心得 石本静枝／一九三六・九

第10巻

- 一五六 東京都を中心とする 厚生省人口問題研究所 産児制限の実態に関する資料(増補) 一九四九・三
一五七 厚生省人口問題研究所 産児制限実態調査結果速報 一九四九・三 (第二次)について
一五八 産制及び移民問題を中心とする タムソン博士の発言とその反響 一九四九・三 (人口問題研究所研究資料第三十八号)
一五九 報告書 産児制限同盟九州支部 自昭和二十三年四月一日 日本産児調節同盟九州支部 至昭和二十四年三月三十一日 一九四九・三
一六〇 世論調査産児調節について 新聞世論調査連盟 新世論第三回調査 一九四九・四
一六一 産児調節について 世論調査結果表 一九四九・四
一六二 正しい妊婦調節教本 加藤シヅエほか／一九四九・四 (婦女界四月号別冊附録)
一六三 社団法人日本防貧協会運動方針書 一九四九・四
一六四 〔母性文化協会(仮称)設立總會案内〕 母性文化協会(仮称)設立趣意書 一九四九・四 母性文化協会(仮称)定款案
一六五 家庭産児制限の実態 藤井久四郎／一九四九・五
一六六 諸外国における産児制限の普及状況 一九四九・六 (研究資料第三十九号)
一六七 計画産児の知識と実際 林讓治ほか (別冊世界ジブNo.1:受胎調節特集 一九四九・六 (人口問題研究所研究資料第四〇号))
一六八 受胎調節及び墮胎に関する 各国の態度並に施設の概要 一九四九・七 (人口問題研究所研究資料第四〇号)
一六九 妊婦中絶(墮胎、死産)の 割合に關する資料 一九四九・七 (人口問題研究所研究資料第四〇号)
一七〇 避妊の知識 安倍雄吉ほか (ルック・エンド・ヒヤイ第一巻第四号附録) 一九四九・七
一七一 避妊と妊娠中絶の実際知識 松山玄三雄 松山みどり 下町に於ける資料 一九四九・七
一七二 産児制限と性生活の実態的研究 人口問題研究所 一九四九・七
一七三 図解避妊教本 三木行治ほか／一九四九・七 幸福な家族設計
一七四 産児制限問題の人口政策的考察 一九四九・七 (人口問題研究所研究資料第三十九号)
一七五 パーボスヴィグ・サンプリング・メソッドによる産児制限に関する輿論調査その一 一九四九・八 (人口と産業問題振興會研究資料第一号)
一七六 産児制限の正しい知識 帆足計・太田典礼 一九四九・一〇
一七七 産児調節と夫婦性生活の実態 崎崎信男 附録 避妊法 一九四九・一一
一七八 御知らせとお願ひまで 崎崎信男／一九四九・一二

第8巻

- 一一一 確実なる避妊の方法 保坂孝雄／一九三七・四 附録 避妊法(治し方叢書第二輯)
一一二 毎日開く相談所新設の御挨拶 日本産児調節婦人同盟 一九三七・八
一一三 母性膜ベツサリの 編 日本産児調節婦人同盟 使用の方 東京女性相談所／一九三七・九
一一四 昭和十五年度ホーム商会取扱品目録 ホーム商会 一九四〇
一一五 特種品目録 一九四〇 オカダ器械店內圖部
一一六 豪華版産制コンドームカタログ 一九四〇
一一七 取扱品目録表 永正堂薬局本店／一九四〇
一一八 小川隆四郎 村上雄策／一九四二・二
一一九 産児制限と婦人 加藤静枝 付サンガー夫人小伝(よみうり叢書3) 一九四六・五
一二〇 産児制限の知識(国民医学新書) 太田典礼／一九四六・五
一二一 食糧危機と産児制限 (人口問題研究所研究資料第二号) 一九四六・七
一二二 産児制限二関スル 編 人口問題研究会 世論ノ動向 一九四六・八 (人口政策委員会参考資料)
一二三 産児制限問題の与論調査 編 人口問題研究会 (読売新聞社実地紙上討論會資料) 一九四六・九
一二四 産児制限と社会主義 (人口問題研究所研究資料第四号) 一九四六・九
一二五 産児制限に就いて 加藤静枝ほか／一九四六・一〇
一二六 妊婦調節相談 編 妊婦調節研究所／一九四六・一〇 (婦人衛生叢書)
一二七 医学上より見たる産児制限と其方法 久慈直太郎
一二八 産児制限の研究 安藤画一ほか／一九四七・二
一二九 産児制限実態調査二関スル概況 一九四七・三 人口問題研究所報告資料概要
一三〇 農村人口収容力調査 一九五〇・三 岩手県紫波郡飯岡村・香川県木田郡井戸村 (人口問題研究所研究報告資料)
一三一 農村人口収容力に関する調査 一九五〇・三 (人口問題研究所研究報告資料)
一三二 報告書 産児制限普及及同盟西日本本部 自昭和二十四年四月一日 一九五〇・三 至昭和二十五年三月三十一日
一三三 〔日本産児制限普及及会 アンケート〕 熊本県船橋保健所／一九五〇・四
一三四 〔日本産児制限 日本製鉄八幡健康保険組合製鉄健康保険館 普及及会アンケート〕 一九五〇・四
一三五 主旨 日本母性科学研究所／一九五〇・一〇
一三六 受精防止の避妊用具 石崎科学研究所 石崎式妊婦調節弁の解説 一九五〇・一〇
一三七 優生保護法施行後の人工妊娠中絶の 状況に関する研究(第一報) 一九五〇・一一 (人口問題研究所研究資料第六七号)
一三八 産児制限普及及会協議會御案内 加藤シヅエ・北岡寿逸 産児制限普及及会今後の活動方針案 一九五〇・一一
一三九 産児制限の促進と人口問題解決に 産児制限普及及会 関する新機軸設置に関する請願案 一九五〇・一二
一四〇 産児制限普及及会趣意書 一九五〇・一二
一四一 産児制限普及及会規約 一九五〇・一二
一四二 幸福のしるべ 計画産児連盟相談部 一九五〇
一四三 日本に家庭に適した 計画産児連盟神戸診療所 新しい避妊法 一九五〇
一四四 借用書 計画産児連盟の金庫／一九五〇
一四五 子供を産みたくない方 平野産院 計画産児連盟 夕すゝみ幻灯の会 一九五〇
一四六 相談券 優生科学協会母の相談所／一九五〇
一四七 妊婦調節の一切の御相談は 優生科学協会／一九五〇 母の相談所へ
一四八 家族計画相談カード 一九五〇

第11巻

- 一七九 現代避妊法早わかり 館橋ほか／一九四九・一一 附録 避妊法(治し方叢書第二輯)
一八〇 受胎調節便覧 編 厚生省公衆衛生局／一九四九・一二
一八一 社団法人日本家族設計協会定款 一九五〇
一八二 農村人口収容力調査 一九五〇・三 岩手県紫波郡飯岡村・香川県木田郡井戸村 (人口問題研究所研究報告資料)
一八三 農村人口収容力に関する調査 一九五〇・三 (人口問題研究所研究報告資料)
一八四 人工妊娠中絶の諸問題 高橋勝好・牛丸義留 改正優生保護法詳説 一九五〇・三
一八五 報告書 産児制限普及及同盟西日本本部 自昭和二十四年四月一日 一九五〇・三 至昭和二十五年三月三十一日
一八六 〔日本産児制限普及及会 アンケート〕 熊本県船橋保健所／一九五〇・四
一八七 〔日本産児制限 日本製鉄八幡健康保険組合製鉄健康保険館 普及及会アンケート〕 一九五〇・四
一八八 主旨 日本母性科学研究所／一九五〇・一〇
一八九 受精防止の避妊用具 石崎科学研究所 石崎式妊婦調節弁の解説 一九五〇・一〇
一九〇 優生保護法施行後の人工妊娠中絶の 状況に関する研究(第一報) 一九五〇・一一 (人口問題研究所研究資料第六七号)
一九一 産児制限普及及会協議會御案内 加藤シヅエ・北岡寿逸 産児制限普及及会今後の活動方針案 一九五〇・一一
一九二 産児制限の促進と人口問題解決に 産児制限普及及会 関する新機軸設置に関する請願案 一九五〇・一二
一九三 産児制限普及及会趣意書 一九五〇・一二
一九四 産児制限普及及会規約 一九五〇・一二
一九五 幸福のしるべ 計画産児連盟相談部 一九五〇
一九六 日本に家庭に適した 計画産児連盟神戸診療所 新しい避妊法 一九五〇
一九七 ごあいさつ／お知らせ 計画産児連盟 一九五〇
一九八 借用書 計画産児連盟の金庫／一九五〇
一九九 子供を産みたくない方 平野産院 計画産児連盟 夕すゝみ幻灯の会 一九五〇
二〇〇 相談券 優生科学協会母の相談所／一九五〇
二〇一 妊婦調節の一切の御相談は 優生科学協会／一九五〇 母の相談所へ
二〇二 家族計画相談カード 一九五〇

二〇三 実行することだけ
今日の産児調節運動である 馬島側ノ一九五一
二〇四 最も新しい最も確実な
通経法に依る産児調節 解説ノ大滝正義ノ一九五一
二〇五 母性科学協会設立趣意書 母性科学協会準備委員会
一九五一
二〇六 産児制限の促進と人口問題解決に
関する新機関設置に関する請願 産児制限普及会
一九五一
二〇七 報告書 産児制限普及同盟西日本本部
自昭和26年4月1日 一九五一
至昭和26年3月31日 一九五一
二〇八 日本における産児制限の概観 P. K. ウェルブト
(人口問題研究所研究資料第七号) 一九五一
二〇九 請願書(マッカーサー宛) 産児制限普及会ノ一九五一
二一〇 A. Y. 式新産児調節法 矢野中ノ一九五一
二一一 (入会の案内) 日本母性科学研究所ノ一九五一
二一二 (パイプ式妊娠調節弁)の
有償見本頒布の案内 石崎科学研究所
一九五一
二一三 我国人口問題に關して 産児制限普及会ノ一九五一
朝野の識者に訴へる 一九五一
二一四 産児制限批判 西野入徳ノ一九五一
二一五 人口問題に關する意見書 産児制限に関する諸団体
一九五一
二一六 (相談所への支援要請) 丹下坂子良ノ一九五一
二一七 平和な家庭生活を望まれる
主婦に御知らせ 日本産児調節指導所
一九五一
二一八 産児調節実践普及国民大会
開催につき案内 日本産児調節連盟
一九五一
二一九 東北三県における産児調節実態
調査票未提出者の未提出理由及び
調査に対する意見の実情について
(人口問題研究所研究資料第七号) 一九五一
二二〇 和歌山県下における
産児制限実態調査結果の概要 一九五一
(人口問題研究所研究資料第七号)
二二一 避妊の不行者別にみた
死産率に関する一資料 一九五一
群馬、和歌山、岡山、香川、鹿児島
五県下における出生率調査からの特殊集計
(人口問題研究所研究資料第七号)

【第13卷】

二五二 産児制限 第壹卷第壹号 産児制限運動聯盟 一九二八
二五三 産児制限 第壹卷第貳号 産児制限運動聯盟 一九二八
二五四 産児制限 第壹卷第參号 産児制限運動聯盟 一九二八
二五五 産児制限 第壹卷第肆号 産児制限運動聯盟 一九二八
二五六 産児制限 第壹卷第伍号 産児制限運動聯盟 一九二八
二五七 産児制限 第壹卷第陸号 産児制限運動聯盟 一九二八
二五八 産児制限 第壹卷第柒号 産児制限運動聯盟 一九二八
二五九 産児制限 第壹卷第捌号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六〇 産児制限 第壹卷第玖号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六一 産児制限 第壹卷第拾号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六二 産児制限 第壹卷第拾壹号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六三 産児制限 第壹卷第拾貳号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六四 産児制限 第壹卷第拾參号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六五 産児制限 第壹卷第拾肆号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六六 産児制限 第壹卷第拾伍号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六七 産児制限 第壹卷第拾陸号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六八 産児制限 第壹卷第拾柒号 産児制限運動聯盟 一九二八
二六九 産児制限 第壹卷第拾捌号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七〇 産児制限 第壹卷第拾玖号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七一 産児制限 第壹卷第貳拾号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七二 産児制限 第壹卷第貳拾壹号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七三 産児制限 第壹卷第貳拾貳号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七四 産児制限 第壹卷第貳拾參号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七五 産児制限 第壹卷第貳拾肆号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七六 産児制限 第壹卷第貳拾伍号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七七 産児制限 第壹卷第貳拾陸号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七八 産児制限 第壹卷第貳拾柒号 産児制限運動聯盟 一九二八
二七九 産児制限 第壹卷第貳拾捌号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八〇 産児制限 第壹卷第貳拾玖号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八一 産児制限 第壹卷第貳拾拾号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八二 産児制限 第壹卷第貳拾拾壹号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八三 産児制限 第壹卷第貳拾拾貳号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八四 産児制限 第壹卷第貳拾拾參号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八五 産児制限 第壹卷第貳拾拾肆号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八六 産児制限 第壹卷第貳拾拾伍号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八七 産児制限 第壹卷第貳拾拾陸号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八八 産児制限 第壹卷第貳拾拾柒号 産児制限運動聯盟 一九二八
二八九 産児制限 第壹卷第貳拾拾捌号 産児制限運動聯盟 一九二八
二九〇 産児制限 第壹卷第貳拾拾玖号 産児制限運動聯盟 一九二八

二三四 日本の過剰人口解決に關し
フオード財団へ寄附申請参加勧誘先 一九五一
二三五 (書状)ノ
フオード財団に寄附金申請書(訳文)ノ
日本の過剰人口解決に關し
フオード財団へ寄附申請参加署名者ノ
日本の過剰人口解決の為の教育計画
三二六 果敢及び都市町村別
産児調節実態調査結果表 一九五二
昭和24年度全国17県に於ける調査
(人口問題研究所研究資料第七号)
三二七 受胎調節に關する世論調査
(世論調査報告書調査番号48) 総理府国立世論調査所
一九五二
三二八 講演と映画の集い
家族計画普及のために 千代田区教育委員会
日赤第二地区連合分団
一九五二
三二九 パイプ式妊娠調節弁 Ben の批判 藤森速水
一九五二
三三〇 フオード財団寄附申請に關する
八人委員会申合せ事項 一九五二
三三一 フオード財団宛寄附申請書(案) 永井亨ノ一九五二

【第12卷】

三三二 出生率調査について 厚生省人口問題研究所
総理府統計局ノ一九五二
三三三 出生率調査票 厚生省人口問題研究所・総理府統計局
一九五二
三三四 出生率調査の要領及び
記入の仕方 厚生省人口問題研究所
附産児調節調査の要領
総理府統計局ノ一九五二
三三五 産児調節調査票ノ
「産児調節」の調査について 厚生省人口問題研究所
お願ひ(封筒) 一九五二
三三六 幸福な家族計画
受胎調節と妊娠の正しい知識 瀬木三雄ノ一九五二
三三七 産児調節に対する国内の
関心と普及状態(第二回) 毎日新聞社人口問題調査会
一九五二
三三八 アメリカ産児制限運動の母
サンガー夫人を迎えて日本の
人口問題について考えよう 産児制限普及会
一九五二
三三九 出生率高低の社会的要因に
關する一考察 一九五二
岡山県下における調査
(人口問題研究所研究資料第八号)

産児ニユース

ニユース発行の挨拶	安全週期設置される 産児調節大会
第一号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第二号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第三号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第四号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第五号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第六号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第七号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第八号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第九号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十一号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十二号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十三号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十四号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十五号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十六号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十七号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十八号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第十九号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟
第二十号 産児調節ニユース	産児調節運動聯盟

二七五 産児調節 第五卷二月号 産児調節運動聯盟 一九二九
二七六 産児調節 第五卷九月号 産児調節運動聯盟 一九二九
二七七 産児調節 第六卷第一号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二七八 産児調節 第六卷第四号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二七九 産児調節 第六卷第六号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八〇 産児調節 第六卷第七号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八一 産児調節 第六卷第八号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八二 産児調節 第六卷第九号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八三 産児調節 第六卷第十号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八四 産児調節 第六卷第十一号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八五 産児調節 第六卷第十二号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八六 産児調節 第六卷第十三号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八七 産児調節 第六卷第十四号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八八 産児調節 第六卷第十五号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二八九 産児調節 第六卷第十六号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九〇 産児調節 第六卷第十七号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九一 産児調節 第六卷第十八号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九二 産児調節 第六卷第十九号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九三 産児調節 第六卷第二十号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九四 産児調節 第六卷第二十一号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九五 産児調節 第六卷第二十二号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九六 産児調節 第六卷第二十三号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九七 産児調節 第六卷第二十四号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九八 産児調節 第六卷第二十五号 産児調節運動聯盟 一九三〇
二九九 産児調節 第六卷第二十六号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇〇 産児調節 第六卷第二十七号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇一 産児調節 第六卷第二十八号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇二 産児調節 第六卷第二十九号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇三 産児調節 第六卷第三十号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇四 産児調節 第六卷第三十一号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇五 産児調節 第六卷第三十二号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇六 産児調節 第六卷第三十三号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇七 産児調節 第六卷第三十四号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇八 産児調節 第六卷第三十五号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三〇九 産児調節 第六卷第三十六号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第三十七号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第三十八号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第三十九号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十一号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十二号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十三号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十四号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十五号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十六号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十七号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十八号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第四十九号 産児調節運動聯盟 一九三〇
三一〇 産児調節 第六卷第五十号 産児調節運動聯盟 一九三〇

【第14卷】

二八二 小家族 第一号 日本産児調節研究会ノ一九三二
二八三 小家族 ニユース 2号 無産者産児制限同盟 一九三二
二八四 小家族 ニユース 号外 無産者産児制限同盟 一九三二
二八五 小家族 ニユース 5号 産児調節運動聯盟 一九三二
二八六 小家族 ニユース 6号 無産者産児制限同盟 一九三二
二八七 小家族 ニユース No. 7 無産者産児制限同盟 一九三二
二八八 小家族 ニユース No. 11 無産者産児制限同盟 一九三二
二八九 小家族 ニユース No. 12 無産者産児制限同盟 一九三二
二九〇 小家族 ニユース No. 13 無産者産児制限同盟 一九三二
二九一 小家族 ニユース No. 14 無産者産児制限同盟 一九三二
二九二 小家族 ニユース No. 15 無産者産児制限同盟 一九三二
二九三 小家族 ニユース No. 16 無産者産児制限同盟 一九三二
二九四 小家族 ニユース No. 17 無産者産児制限同盟 一九三二
二九五 小家族 ニユース No. 18 無産者産児制限同盟 一九三二
二九六 小家族 ニユース No. 19 無産者産児制限同盟 一九三二
二九七 小家族 ニユース No. 20 無産者産児制限同盟 一九三二
二九八 小家族 ニユース No. 21 無産者産児制限同盟 一九三二
二九九 小家族 ニユース No. 22 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇〇 小家族 ニユース No. 23 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇一 小家族 ニユース No. 24 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇二 小家族 ニユース No. 25 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇三 小家族 ニユース No. 26 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇四 小家族 ニユース No. 27 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇五 小家族 ニユース No. 28 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇六 小家族 ニユース No. 29 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇七 小家族 ニユース No. 30 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇八 小家族 ニユース No. 31 無産者産児制限同盟 一九三二
三〇九 小家族 ニユース No. 32 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 33 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 34 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 35 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 36 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 37 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 38 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 39 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 40 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 41 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 42 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 43 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 44 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 45 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 46 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 47 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 48 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 49 無産者産児制限同盟 一九三二
三一〇 小家族 ニユース No. 50 無産者産児制限同盟 一九三二



二四〇 サンガー女史一行日程表 毎日新聞社人口問題調査会
一九五二
二四一 決議 東京母性保護会下谷地区委員ノ一九五二
二四二 受胎調節の衛生教育テキスト 原清ノ一九五二
(CURSES LIBRARY No. 108)
二四三 第二次昭和27年産力調査の速報 一九五三
(人口問題研究所研究資料第87号)
二四四 受胎調節法の実際 中井博松ノ一九五三
受胎調節講習会質疑解説集
二四五 第二次(1952年)産力調査 厚生省人口問題研究所
一九五三
二四六 産児調節の普及状況に
關する調査 厚生省人口問題研究所
一九五三
二四七 わが家の人口計画 安藤画一ノ一九五三
受胎調節と不妊治療
二四八 優生保護相談所の実情と 関東地区優生保護研究会
受胎調節指導の基本問題 一九五三
二四九 長野県農村における
受胎調節指導について第一報 長野県優生保護研究会
(優生保護研究会資料第1号) 一九五三
二五〇 丈夫な子供をもうける家庭 長野県優生保護研究会
一九五三

二九一 プロBCニユース大衆版 無産者産児制限同盟
第四号大衆産児制限 一九三二
二九二 産児調節ニユース 日本産児調節場同盟本部
第一号 一九三二
二九三 産児調節ニユース 日本産児調節運動聯盟本部
第一号 一九三二
二九四 産児制限 第一卷第一号 健康世界社ノ一九四二
二九五 産児制限 第一卷第一号 健康世界社ノ一九四二
二九六 産児制限 第一号 日本産児調節運動聯盟本部
一九四二
二九七 産児制限 第一号 日本産児調節運動聯盟本部
一九四二
二九八 日本産児調節運動聯盟本部
第一号 一九四二
二九九 日本産児調節運動聯盟本部
第二号 一九四二
三〇〇 日本産児調節運動聯盟本部
第三号 一九四二
三〇一 日本産児調節運動聯盟本部
第四号 一九四二
三〇二 日本産児調節運動聯盟本部
第五号 一九四二
三〇三 日本産児調節運動聯盟本部
第六号 一九四二
三〇四 日本産児調節運動聯盟本部
第七号 一九四二
三〇五 日本産児調節運動聯盟本部
第八号 一九四二
三〇六 日本産児調節運動聯盟本部
第九号 一九四二
三〇七 日本産児調節運動聯盟本部
第十号 一九四二
三〇八 B.C. ニユース パスコン研究会ノ一九五二
三〇九 避妊批判 ニユース 第六号 日本計画出生協会
一九五二
三一〇 母性新聞 第一号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第五号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第六号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第七号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第八号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第九号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十一号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十二号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十三号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十四号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十五号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十六号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十七号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十八号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第十九号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十一号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十二号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十三号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十四号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十五号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十六号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十七号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十八号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第二十九号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十一号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十二号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十三号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十四号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十五号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十六号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十七号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十八号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第三十九号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十一号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十二号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十三号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十四号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十五号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十六号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十七号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十八号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第四十九号 関西優生協会ノ一九五二
三一〇 母性新聞 第五十号 関西優生協会ノ一九五二

第15卷

- 三一九 戦後経営人口政策完 吳文聰／一九〇五・一一
三二〇 日本人種改造論 海野幸徳／一九一〇・六
三二一 民種改善模範夫婦 沢田順次郎／一九二一・九

第16卷

- 三三二 妊娠及産二因死亡統計 編内閣統計局／一九二四・三
三三三 民族衛生学 氏原佐蔵／一九二四・一一
三三四 社会衛生学 福原義柄／一九二五・六
三三五 人類の遺伝 山内繁雄／一九二七・二
三三六 保健衛生調査会第一回報告書 一九二七・五

第17卷

- 三三七 優生学と人生 田中香涯／一九二三・三
三三八 遺伝と人性 斎藤茂三郎／一九二六・一
三三九 優生学的社会改造運動 講演田田林儀
(学芸講演通信社パンフレットNo25) 一九二六・九
三三〇 ユウゼニックス(岩波講座生物学) 小泉丹／一九三〇・二
三三一 人口食糧問題調査会人口部答申説明 一九三〇・四
三三二 優生学と社会生活 建部逸吾／一九三二・一

第18卷

- 三三三 (人口対策研究会設立挨拶状) 一九三三・七
三三四 民族優生保護法案 荒川五郎／一九三四
三三五 女性文化講話 市川源三
(入学:青春期、結婚、優生学母の再教育) 一九三五・三
三三六 優生学概論 永井藩／一九三六・二
三三七 優生講話 阿部文夫／一九三六・六
三三八 人口問題の見地より見たる 人口問題研究会
(人口問題資料第二十一輯) 一九三七・二
三三九 断種問題小論 述堀地甚一／一九三八・五
三四〇 全国精神病院在患者遺伝調 厚生省予防局
(人口問題資料第二十二輯) 一九三九・二〇
三四一 民族優生制度案要綱 一九三九・二〇
三四二 出生力調査案要綱 人口問題研究所／一九三九・二一
三四三 優生制度案要綱 一九三九・二二
(国民体力審議会) 答申

第19卷

- 三四四 国防国家の建設と結婚報國聯盟の提唱 宇原義豊
三四五 御祝 熊野村／一九四〇
三四六 優生法案 一九四〇・二
三四七 昭和十四年人口動態推計 人口問題研究所
(重要人口現象ニ及ボシタル影響ニ関スル資料) 一九四〇・二
三四八 各国優生関係法令 厚生省予防局／一九四〇・二
三四九 国民優生ニ関スル法律案ノ 厚生省／一九四〇・三
(帝國議會ニ於ケル審議ノ経過)

第20卷

- 三五〇 赤十字博物館報 林春雄ほか／一九四〇・四
(第式送呈号) 日本民族優生展覧会
三五二 支那事変による出生及死亡の変化 一九四〇・八
(人口問題研究資料)
三五三 昭和十三年及昭和十四年各年 男子出生数ノ減下其ノ対策トシテノ 一九四〇・八
(人口問題研究資料)
三五四 断種の理論と国民優生法の解説 池見猛／一九四〇・八
(人口問題研究資料)
三五五 出生力調査結果速報 人口問題研究所／一九四〇・九
(人口問題資料第四十一輯)
三五六 優生学の理論と実際 吉益脩夫／一九四〇・九
(特に精神医学との関係に於て)
三五七 優生制度資料(カド) 厚生省予防局／一九四〇
三五八 血族結婚について 厚生省優生結婚相談所／一九四〇
三五九 家系調査要綱 厚生省、厚生科学研究所／一九四一・一
(企画院第三部新設第号) 一九四一・一
三六一 予防衛生ニ関スル法規及例規 厚生省予防局
(附参考資料) 一九四一・三
三六二 結婚と迷信 編 厚生省優生結婚相談所／一九四一・三
(附参考資料) 藤本直／一九四一・三
(京城帝國大学法学会叢刊5)

第21卷

- 三六四 結婚のすすめ 編 厚生省優生結婚相談所／一九四一・四
(附参考資料) 厚生省優生結婚相談所／一九四一・五
三六五 結婚と癩病 厚生省優生結婚相談所／一九四一・五
四一四 優生保護法の一部を 谷口弥三郎ほか
改正する法律案送付ノ發議 一九四九・四
四一五 優生保護法の一部を改正する 一九四九・五
法律案に対する修正案
四一六 優生保護法の一部を改正する法律案 一九四九・五
四一七 優生保護法の一部を改正する 一九四九・五
法律案(參議院提出)に関する報告書
四一八 優生結婚 竹内茂代／一九四九・六
四一九 母子衛生の主なる統計 厚生省児童局母子衛生課
一九四九・七
四二〇 人命のための一つの抗議 カトリック文化協会
(妊娠中絶に関する道徳的問題) 一九四九・八
四二一 優生保護法実施情况 厚生省公衆衛生局庶務課
一九四九・八
四二二 優生保護法実施情况 厚生省公衆衛生局庶務課
一九四九・八
四二三 優生保護法実施情况 厚生省公衆衛生局庶務課
一九四九・八
(昭和二十四年一月至同六月)
四二四 母子衛生の主なる統計 厚生省児童局母子衛生課
一九五〇・四
四二五 優生と胎教(家庭の科学) 木田文夫／一九五〇・二
四二六 優生保護法関係法規集 厚生省公衆衛生局庶務課
一九五〇・三
四二七 日本人口白書 編 人口問題研究会
(附最近の主要人口統計) 一九五一・八
四二八 母子衛生の主なる統計 厚生省児童局母子衛生課
昭和二十年度版 一九五二・四
四二九 日本人口衛生協会設立趣意書 一九五二
四三〇 日本人口衛生協会設立 一九五二・六
記念シムボジウムへの御招待
四三一 財団法人人口問題研究会会費募集 一九五二
四三二 財団法人人口問題研究会会費募集 一九五二
四三三 財団法人人口問題研究会会費募集 一九五二・七
四三四 詳解改正優生保護法 高橋勝好／一九五二・九
四三五 財団法人人口問題研究会寄附行為 一九五二・一〇
四三六 日本人口学会に於ける C.J.ギャンブル博士の講演 一九五二・二一
四三七 財団法人人口問題研究会 一九五三・七
(附参考資料)
四三八 財団法人人口問題研究会 一九五三・七
(附参考資料)
四三九 人口対策としての 人口問題研究会
(附参考資料) 一九五三・二一
(家族計画に関する参考資料)

第22卷

- 三六六 母性指針 白木正博／一九四一・五
三六七 国民優生図解 編 厚生省予防局／一九四一・五
三六八 国土・人口・血液 古屋秀雄／一九四一・六
三六九 結婚新体制 石田博英・高野善一郎／一九四一・六
三七〇 結婚ニ於ケル健康問題ノ指導指針 厚生省
人口問題研究所
三七二 保健婦に就いて 厚生省人口局／一九四一・二〇
(人口問題研究資料)
三七三 優生結婚と優生断種 青木延春／一九四一・二一
三七四 国民優生法 土井十二／一九四一・二一
三七五 保健所運営の実際 渡辺義雄ほか／一九四一・二二
三七六 我国の人口問題と人口政策確立要綱 厚生省人口局
(人口問題研究資料) 一九四一・二二
三七七 人口問題 美濃口時次郎／一九四一・二二
(生活の科学新書5)
三七八 十八歳未満の子女の分布 一九四一
(人口問題研究資料)
三七九 結婚行事改善指針 結婚報國懇話会／一九四二
(結婚問題資料第一輯)
三八〇 事業場に於ける結婚奨励 結婚報國懇話会／一九四二
(結婚問題資料第一輯)
三八一 結婚報國懇話会々則 一九四二・一
(附役員名簿)
三八二 保健所ニ関スル法規及例規 厚生省人口局／一九四二・二
(人口問題資料第一輯)
三八三 出生率より見たる現下の人口問題 厚生省人口局
(人口問題資料第一輯)
三八四 妻の婚姻年齢と出生力 厚生省人口問題研究所
(結婚促進に関する資料) 一九四二・三
(大東亜建設民族人口資料)
三八五 結婚年齢と所得 厚生省人口問題研究所
(結婚促進に関する資料) 一九四二・三
(大東亜建設民族人口資料)
三八六 最近に於ける結婚の傾向(暫定稿) 厚生省人口問題研究所
(結婚促進に関する資料) 一九四二・三
(大東亜建設民族人口資料)
三八七 母子保護の重要性に就て 厚生省人口局／一九四二・三
(附参考資料) 母子保護資料第一輯
三八八 子宝報國の契 厚生省人口局／一九四二・三
(母子保護資料第一輯)

第23卷

- 三九一 人口対策としての家族計画 人口問題研究会
一九五三・一一
(附参考資料)
三九二 優生保護法関係統計(速報) 厚生省公衆衛生局庶務課
一九五三・一一
(昭和二十八年一月、六月)
四四〇 人口対策としての家族計画 人口問題研究会
一九五三・一一
(附参考資料)
四四一 昭和二十八年一月、六月 厚生省公衆衛生局庶務課
一九五三・一一
(優生保護法関係統計(速報))
四四二 優生断種法トハ何カ 一九三八・一一
(民族衛生研究資料第一号)
四四三 精神薄弱に関する遺伝の研究 Krad 訳田波幸男
一九三八・二二
(民族衛生研究資料第二号)
四四四 外国に於ける断種法実施状況 一九三九・一
(民族衛生研究資料第二号)
四四五 優生断種法に就て 一九三九・三
(民族衛生研究資料第四号)
四四六 昭和十三年十一月十七日開催 安部磯雄ほか
(民族衛生研究資料第六号) 一九三九・三
(民族衛生研究資料第六号)
四四七 非常時局下に於ける民族衛生問題 林春雄
一九三九・三
(民族衛生研究資料第五号)
四四八 人類遺伝学の進歩 川上理一ほか／一九三九・五
(民族衛生研究資料第八号)
四四九 民族優生とは何か 一九三九・八
(民族衛生研究資料第九号)
四五〇 文化環境と民族の変質 古屋秀雄／一九三九・八
(民族衛生研究資料第九号)
四五二 染色体と遺伝の關係 武部啓／一九三九・一〇
(民族衛生研究資料第十号)
四五三 独逸に於ける人類遺伝の研究 満田久敏
一九三九・一〇
(民族衛生研究資料第十号)
四五四 人類の染色体 小熊輝／一九四〇・三
(民族衛生研究資料第十三号)



第24卷

- 三九六 全国助産婦並に産婦人科 日本医療団總裁調査部
(取扱病産院の分布状況) 一九四三・八
(産院設置計画基礎調査第一輯)
三九七 妊産婦保健関係資料 厚生省人口局母子課／一九四三・九
三九八 遺伝・人生・随想 田中義磨／一九四三・一〇
三九九 民族科学研究第一輯 編 林春雄 古屋秀雄
(日本学術振興会(民族科学) 一九四三・一一
(第11特別委員会報告))
四〇〇 保健教本母性の保護改訂版 編 大政翼賛会文化厚生部
一九四四・四
四〇一 熊本県人口増強基本調査 厚生省研究所人口民族部
結果概要 一九四四・五
(人口問題資料第四輯)
四〇二 ドイツの健民政策と母子保護事業 瀬木三雄
一九四四・一一
四〇三 国民優生法第十六条に関する件 厚生省衛生局長
厚生省予防第二号 一九四六・七
四〇四 国民優生法中 田中たつ／一九四六・八
一条挿入に関する建議案
四〇五 新人口政策基本方針に 人口問題研究会
関する建議 一九四六・一一
四〇六 日本人口の将来 館稔／一九四七・八
四〇七 優生保護法案 一九四七・一〇
(人口問題研究所)
四〇八 優生保護法案に対する 人口問題研究所／一九四七・一〇
検討結果要旨 永井藩／一九四八・三
四〇九 民族の運命 日本国民に想ふ(民族衛生叢書)
四一〇 優生保護法案送付ノ發議 谷口弥三郎ほか
四一一 優生保護法解説 谷口弥三郎・福田昌子／一九四八・一〇
四一二 優生保護法と妊娠中絶 安倍雄吉／一九四八・一一
四一三 人口問題資料II 厚生省予防局衛生統計部／一九四九・三

第25卷

- 四一四 優生保護法の一部を 谷口弥三郎ほか
改正する法律案送付ノ發議 一九四九・四
四一五 優生保護法の一部を改正する 一九四九・五
法律案に対する修正案
四一六 優生保護法の一部を改正する法律案 一九四九・五
四一七 優生保護法の一部を改正する 一九四九・五
法律案(參議院提出)に関する報告書
四一八 優生結婚 竹内茂代／一九四九・六
四一九 母子衛生の主なる統計 厚生省児童局母子衛生課
一九四九・七
四二〇 人命のための一つの抗議 カトリック文化協会
(妊娠中絶に関する道徳的問題) 一九四九・八
四二一 優生保護法実施情况 厚生省公衆衛生局庶務課
一九四九・八
四二二 優生保護法実施情况 厚生省公衆衛生局庶務課
一九四九・八
四二三 優生保護法実施情况 厚生省公衆衛生局庶務課
一九四九・八
(昭和二十四年一月至同六月)
四二四 母子衛生の主なる統計 厚生省児童局母子衛生課
一九五〇・四
四二五 優生と胎教(家庭の科学) 木田文夫／一九五〇・二
四二六 優生保護法関係法規集 厚生省公衆衛生局庶務課
一九五〇・三
四二七 日本人口白書 編 人口問題研究会
(附最近の主要人口統計) 一九五一・八
四二八 母子衛生の主なる統計 厚生省児童局母子衛生課
昭和二十年度版 一九五二・四
四二九 日本人口衛生協会設立趣意書 一九五二
四三〇 日本人口衛生協会設立 一九五二・六
記念シムボジウムへの御招待
四三一 財団法人人口問題研究会会費募集 一九五二
四三二 財団法人人口問題研究会会費募集 一九五二
四三三 財団法人人口問題研究会会費募集 一九五二・七
四三四 詳解改正優生保護法 高橋勝好／一九五二・九
四三五 財団法人人口問題研究会寄附行為 一九五二・一〇
四三六 日本人口学会に於ける C.J.ギャンブル博士の講演 一九五二・二一
四三七 財団法人人口問題研究会 一九五三・七
(附参考資料)
四三八 財団法人人口問題研究会 一九五三・七
(附参考資料)
四三九 人口対策としての 人口問題研究会
(附参考資料) 一九五三・二一
(家族計画に関する参考資料)

第26卷

- 四四〇 人口対策としての家族計画 人口問題研究会
一九五三・一一
(附参考資料)
四四一 昭和二十八年一月、六月 厚生省公衆衛生局庶務課
一九五三・一一
(優生保護法関係統計(速報))
四四二 優生断種法トハ何カ 一九三八・一一
(民族衛生研究資料第一号)
四四三 精神薄弱に関する遺伝の研究 Krad 訳田波幸男
一九三八・二二
(民族衛生研究資料第二号)
四四四 外国に於ける断種法実施状況 一九三九・一
(民族衛生研究資料第二号)
四四五 優生断種法に就て 一九三九・三
(民族衛生研究資料第四号)
四四六 昭和十三年十一月十七日開催 安部磯雄ほか
(民族衛生研究資料第六号) 一九三九・三
(民族衛生研究資料第六号)
四四七 非常時局下に於ける民族衛生問題 林春雄
一九三九・三
(民族衛生研究資料第五号)
四四八 人類遺伝学の進歩 川上理一ほか／一九三九・五
(民族衛生研究資料第八号)
四四九 民族優生とは何か 一九三九・八
(民族衛生研究資料第九号)
四五〇 文化環境と民族の変質 古屋秀雄／一九三九・八
(民族衛生研究資料第九号)
四五二 染色体と遺伝の關係 武部啓／一九三九・一〇
(民族衛生研究資料第十号)
四五三 独逸に於ける人類遺伝の研究 満田久敏
一九三九・一〇
(民族衛生研究資料第十号)
四五四 人類の染色体 小熊輝／一九四〇・三
(民族衛生研究資料第十三号)

〔第27卷〕

- 四五五 造化機論乾坤 ゼームス・アストン 訳 千葉繁 一八七五・一
- 四五六 男女交合得失問答 編 武部清三郎・木村巳之助 一八八六・四
- 四五七 色情狂編完 クラフト・エビング 訳 法医学会 一八九四・五
- 四五八 社会的色欲論 ヘーガル 訳 緒方正清 一八九九・四
- 四五九 男女之研究完 大島居三・沢田順次郎 附録性愛論 一九〇四・六
- 四六〇 色情と其衛生 中谷驥 一九〇五・二

〔第28卷〕

- 四六一 男女と天才 片山正雄 原著 オットー・ワインゲル 一九〇六・一
- 四六二 色情と青年 原真男 一九〇六・一〇
- 四六三 青年子女墮落の理由 日比野寛 一九〇七・七 附其矯救策
- 四六四 応用問答生殖健康全法 平井成 一九〇八・一〇
- 四六五 性欲衛生論 駿河尚庸 一九一〇・七
- 四六六 男女の性欲研究全 田中祐吉 一九二二・一

〔第29卷〕

- 四六七 性慾哲学 青柳有美 一九一三・二
- 四六八 婦人性学全 秋元洗二 一九一四・一〇
- 四六九 変態性慾論 羽太説治・沢田順次郎 一九一五・六 同性愛と色情狂

〔第30卷〕

- 四七〇 青年と性慾 藤浪鑑 一九一七・九
- 四七一 現代性慾生活問題 米田庄太郎 一九一八・四
- 四七二 性慾研究と精神分析学 榎保三郎 一九一九・二
- 四七三 生命と性慾 川村多実二 一九一九・二
- 四七四 性慾の調節 三宅電次郎ほか 一九一九・八

〔第31卷〕

- 四七五 性の原理 下田次郎 一九二一・五
- 四七六 変態性慾講義 北野博美 一九二二・一
- 四七七 夫婦の性的生活 田中祐吉 一九二二・九

- 四七八 性慾の社会的考察 石原修 一九二五・二 (新生協会叢書第三種)
- 四七九 性的誘惑の種々相とその対策 前田誠孝 一九二七・八

〔第32卷〕

- 四八〇 闘性術 高田義一郎 一九二八・一
- 四八一 変態性格者雑考全 中村古峯 一九二八・六 (変態文獻叢書第参巻)
- 四八二 チャームとモーション 羽太説治 一九二八・八
- 四八三 性篇(健康増進叢書) 永井潜ほか 一九二九・九
- 四八四 家庭と性教育 シネー・オールズ 訳 馬場嘉市・鎌谷貞子 一九三二・四
- 四八四 性具等ノ取締ニ関スル件依命通牒 警視局長 一九三三・二

〔第33卷〕

- 四八五 結婚読本 永井潜 一九三四・一
- 四八六 変態性医学講話 沢田順次郎 一九三四・六
- 四八七 妻のための性知識 阿部長助 一九三六・九

〔第34卷〕

- 四八八 性科学(唯物論全書) 太田武夫 一九三七・四
- 四八九 性教育ハンドブック 市川篤二 一九四八・三 性と性病のはなし
- 四九〇 性教育要綱 安藤画一 一九四八・九 指導者のための
- 四九一 独身者の性生活 式場隆三郎 一九四九・四
- 四九二 純潔教育 定方電代ほか 一九四九・五
- 四九三 純潔教育基本要項 編 社会教育連合会 一九四九・六 附性教育のあり方
- 四九四 現代学生の性行動 朝山新一 一九四九・〇
- 四九五 性科学の基礎知識 安田徳太郎 一九五〇・一 (新しい知識講座8)

〔第35卷〕

- 四九六 日本人の性生活 篠崎信男 一九五三・一〇
- 四九七 未亡人 林藤ほか 一九五三・二〇 生理・心理・実態・社会問題
- 四九八 性教育はどのように行うか 大島正雄ほか 一九五三・二
- 四九九 思春期の性意識 (日本における性の調査報告大集第3巻) 岡田寅次 一九五三・二

「自由で自然な選択」の本質を探る 柘植あづみ (明治学院大学教授)

子どもを産むか産まないか、産むとしたらいつ、何人もつかの選択は、個人的な選択であると思われている。また、病気や障害を「異常」として避け、排除するのは、仕方がないことであり、何が正常で何が異常かの境界は当たり前前にそこにあるとみなされる。さらに、誰を好きになるかの選択も、異性愛か同性愛かといった性指向も、自由で自然なことだとされている。しかし、この「性と生殖の人権問題資料集成」は、性と生殖の大半が文化的・社会的・政治的に規定されていて、「自由な選択」だと思っていたのが、いかにそうではなかったかを、眼前に突きつけるのである。この資料は現在の「正常」と「異常」の境界を疑ってみること、そして、個人に責任を負わせてきた性と生殖の諸課題を、人権問題として捉えなおすことを要請する。それが、歴史的事実を知ったものの役目でもある。その作業の後に、本当のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの意義が理解されるだろう。……(つげあづみ)



セクシュアリティ研究の進展を期待 成田龍一 (日本女子大学教授)

婦選会館(市川房枝記念会)の図書室で、産児調節運動の機関誌を読んでいたのは、もう二〇年も前のこととなる。近代日本研究においてセクシュアリティへの関心が、ようやくたちあらわれてきたころだった。そのうち、セクシュアリティ研究の進展はまことに目ざましい。身体や衛生、あるいは人びとの心性や関係性をめぐる研究のなかでセクシュアリティの考察が焦点化し、あれこれの通史や叢書には性と生殖にかかわる論点がくみこまれるようになった。いまやセクシュアリティの領域は近代日本の歴史像を書き換える拠点のひとつとしての様相を呈するようにさえ、みうけられる。だが、セクシュアリティの史的考察にとつて大きな制約のひとつは、資料への接近が決して容易ではないということである。たびたび引用される資料でも、原文を見るには予想以上に困難をとまなう。こうしたとき、『性と生殖の人権問題資料集成』が刊行されることは、このうえない福音である。収録が予定されている資料は、近年の研究の進展をもとに「運動の領域から「問題」と「政策」へとひろがりをもち、さらに性教育や性科学といった性の言説の領域にまでふみこんでいっている。この資料を活用することによってセクシュアリティの研究はさらにすすみ、近代日本像の地平は「履」ひろがっていくことであらう。……(なりたりゆういち)

リプロダクティブヘルス／ライフツを 現実のものとするために

樋口恵子 元・東京家政大学教授 女性と健康ネットワーク

いまだだけの人々が優生保護法あるいは母体保護法というものに関心をもっているだろう。一九〇七年以来、改訂も撤廃もされないまま墮胎罪が厳然と存在することを知らずとも稀だろう。しかしこの墮胎罪と優生保護法こそが、戦前から現在まで日本の女の産む産まないを決める権利を規制・管理したものであって、母体保護法という名称に替わっても、その本質に女が自分の意志で決めるという思想はない。

かつて貧乏人の子沢山を返上したい、婚外妊娠したら自殺するしかないのはたまらない、と女や医師・産婆たちがいかに抵抗し、セルフ・ヘルプの運動を作り出してきたか。つい二〇年前三〇年前にも優生保護法の改悪——人工妊娠中絶の条件である経済的理由を削除するという動きがあり、今また「少子化対策」という名の下での中絶禁止の動きから目が離せない。いっぽう、生殖技術の急進展は女を「完全な子ども」を産むよう追いやり、生命の選別をもたらそうとしている。これまで国の政策決定権は、圧倒的に男性の側にあったため、結果として女性のリプロダクティブ・ライフツに反する動きばかりであった。いまは多少改善はされてきているが、油断してはいけないうたて押し戻される状況にある。

リプロダクティブ・ライフツはより重い当事者である女の立場を重視する、というあたりまえのことを現実のものとするために、そしてフェミニズムが優生思想に向き合うために、この約五〇〇点という膨大な資料から学ぶものは、絶大だ。そして何よりこの資料群は、面白い。……(ひぐちけいこ)

深い歴史研究が必要な時代に 廣嶋清志

島根大学教授

戦後日本の出生率は、ベビーブームの高率から一九五〇年代半ばには人口静止水準に

まで低下した。欧米以外で初めての例である。なぜこのように急速な出生率低下が実現したのだろうか。

それを解く鍵の第1は戦前戦後の庶民の生活実態、意識、経験であり、第2には戦前からの産児制限をめぐる社会運動と行政の取り組みである。戦前には生めゆ殖やせよという出産奨励の人口政策がとられたことがよく知られている。しかし実はそれだけではなかった。そういう二面的な見方は、終戦前から直後に形成されていったものであり、今も生きている。このように時代はしばしば後世にゆがめられて伝えられる。その時代を知るには、通説にとらわれず、その時々々の原資料を直接に見て、時代を再構成する作業が欠かせない。

日本の出生率低下は避妊の普及ではなく中絶の普及によって達せられた。中絶はしだいに避妊に置き換えられていくが、なぜ避妊でなく中絶が先行したのだろうか。優生思想の強い影響が重要な要因であると私は見ている。

しかし異論もある。深い歴史研究が必要とされている。このような日本の産児制限の普及過程を研究することは、避妊が普及するための社会的条件は何なのかという現代的課題を明らかにすることにつながっている。

『性と生殖の人権問題資料集成』は、このような研究のために重要な資料を提供するものといえよう。……(ひろしまきよし)



関連図書の一覧



性科学研究 改題 性教育《全2巻》

太田武夫(典礼)主宰(昭和11年~12年刊)

解説(斎藤光)・総目次・索引付き
A5判・上製・総1、468頁
揃定価145,000円
'01年6月刊(復刻版)
推薦II赤川学・館かおる
性風俗・性教育、大学生の性意識・体験調査、性の歴史研究、性犯罪、生殖科学、売春の歴史、性病、産児調節、墮胎、恋愛論まで、広く性全般を網羅する太田典礼主宰の性科学雑誌。

優生運動《全9巻・別冊1》品切

池田林儀II主宰

大正15年~昭和5年刊
別冊II解説(藤野豊)・総目次・索引
A5判・上製・総4、766頁
揃定価II本体154,000円+税
'99年6月~'99年11月配本完結(復刻版)
推薦II岡田靖雄・荻野美穂・木畑和子・鈴木善次・米本昌平
優生思想をひろく民衆レベルにも浸透させることを意図して展開された優生運動の機関誌。スローガンに「よい種子」「よい畑」「よい手入れ」を掲げて日本人をして「世界の第一線に立たしめることを理想」とした。

変態心理《全34巻・別冊1》

中村古峯II主幹/日本精神医学会II刊

大正6年~大正15年刊
別冊II解説(倉根博義)・総目次・索引
A5判・上製・総12、000頁
揃定価II本体303,000円+税
'98年4月~'99年11月配本完結(復刻版)
(注)第1巻、第23巻は大空社刊・不二出版発売です。
編集委員II小田晋・栗原彬・佐藤達哉・倉根博義・中村民男
推薦II大原健士郎・小峯和茂・関井光男・南博山下武
本誌は、多重人格、トラウマ、精神病質、神経衰弱、心霊現象等さまざまな異常心理・超心理の具体的事例を満載した研究雑誌。社会心理学、精神医学はもとより犯罪・性・差別・教育・宗教・文学などの分野での資料の宝庫。

生活誌
第一巻
生活誌
第一巻



日本女性運動資料集成《全10巻・別冊1》

鈴木裕子II編・解説

A5判・上製・函入・総8、604頁
定価II各巻本体15,000円+税
'93年11月~'98年12月配本完結
推薦II上野千鶴子・落合恵子・金森トシエ・加納実紀代・住井すゑ・高橋喜久江・土井たか子・松尾尊亮もろさわようこ・米田佐代子
女たちの近代を女たち自身の運動によって記録する。女性史研究にとって待望の基本資料集。ピラ、運動体の機関誌類をはじめ、官憲側の資料、一般紙誌を駆使して、敗戦までの激動の時代を生きた女たちの実像に迫る。第7巻II生活・労働IVでは「産児調節運動」の編を収録。

性と社会 産児調節論 改題《全2巻》

山本宣治II主宰

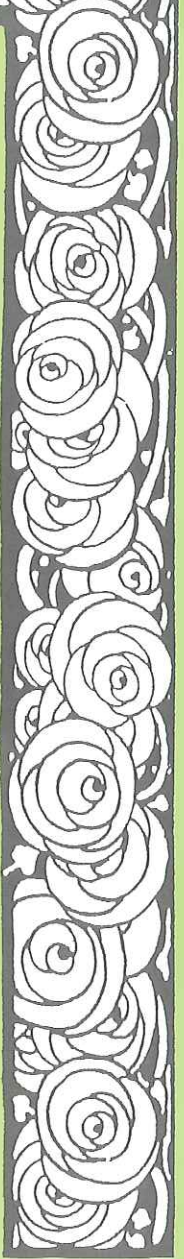
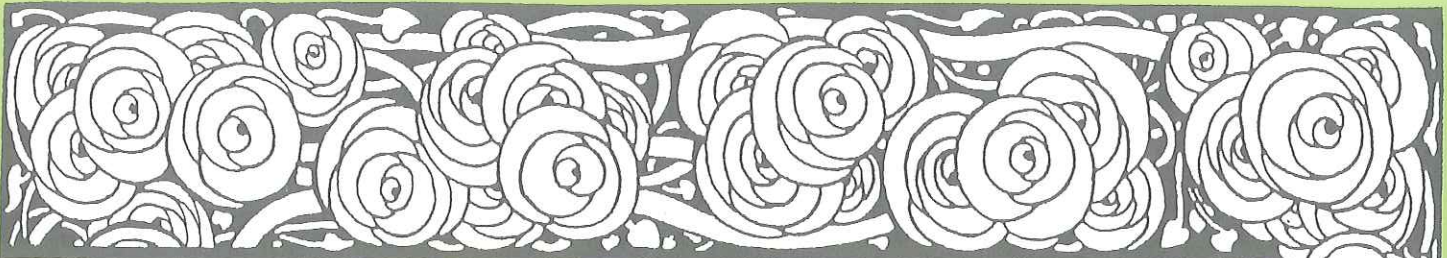
大正14年~大正15年刊
付録II解説(佐々木敏二)・総目次・索引・「山崎女史家族制限法批判」
菊判・上製・函入・総1、118頁
揃定価II本体15,000円+税
'95年11月再刊(復刻版)
推薦II荻野美穂・松尾尊亮・松尾尊亮・山本直英
本誌は一四号で廃刊になるまで、困窮する労働者の立場から産児制限の合理性、道徳性を訴え、避妊法を説き、性教育・人口問題を論じ続けた。女性問題・社会運動史・性教育研究に貴重な文献。全四号を復刻。

性の歴史学

藤目ゆきII著

公娼制度・墮胎罪体制から売春防止法・優生保護法体制へ
A5判・並製・448頁
定価II本体4,800円+税
'97年3月刊
日本近現代史を性と生殖の視点から照射し、底辺の女性から大日本帝国のフェミニストたちまで、日本女性のあゆみを鋭く描きたす。これまでの女性史の常識を問い直す著。





【編集復刻版】
性と生殖の
人権問題資料集成
八七五一九五三

全三十五巻十別冊 全巻完結

A4判/上製/総二万二二五〇ページ
揃定価＝本体八万五〇〇〇円十税

〈別冊のみ分売可＝本体一〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1352-2〉

編・解説＝産児調節運動編/荻野美穂(大阪大学)

優生問題・人口政策編/松原洋子(立命館大学)

性科学・性教育編/斎藤光(京都精華大学)

推薦＝市野川容孝・川村邦光・柘植あづみ・
成田龍二・樋口恵子・廣嶋清志

【配本概要】

- 第一回配本 ●二〇〇〇年六月刊行
第1巻―産児調節運動編1
- 第2巻―産児調節運動編2
別冊―解説荻野美穂・松原洋子・斎藤光・総目次・索引
●揃定価＝五万五千十税 ISBN4-8350-1349-2
- 第二回配本 ●二〇〇〇年九月刊行
第15巻―優生問題・人口政策編1
第16巻―優生問題・人口政策編2
第17巻―優生問題・人口政策編3
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1353-0
- 第三回配本 ●二〇〇〇年二月刊行
第27巻―性科学・性教育編1
第28巻―性科学・性教育編2
第29巻―性科学・性教育編3
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1357-3
- 第四回配本 ●二〇〇一年二月刊行
第3巻―産児調節運動編3
第4巻―産児調節運動編4
第5巻―産児調節運動編5
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1361-1
- 第一～四回＝二〇〇〇年度＝二十七万五〇〇〇円
- 第五回配本 ●二〇〇一年六月刊行
第18巻―優生問題・人口政策編4
第19巻―優生問題・人口政策編5
第20巻―優生問題・人口政策編6
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1365-4
- 第六回配本 ●二〇〇一年九月刊行
第30巻―性科学・性教育編4
第31巻―性科学・性教育編5
第32巻―性科学・性教育編6
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1369-7
- 第七回配本 ●二〇〇一年二月刊行
第6巻―産児調節運動編6
第7巻―産児調節運動編7
第8巻―産児調節運動編8
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1373-5
- 第八回配本 ●二〇〇二年二月刊行
第21巻―優生問題・人口政策編7
第22巻―優生問題・人口政策編8
第23巻―優生問題・人口政策編9
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1377-8
- 第五～八回＝二〇〇一年度＝三〇万円
- 第九回配本 ●二〇〇二年六月刊行
第33巻―性科学・性教育編7
第34巻―性科学・性教育編8
第35巻―性科学・性教育編9
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1381-6
- 第一〇回配本 ●二〇〇二年九月刊行
第9巻―産児調節運動編9
第10巻―産児調節運動編10
第11巻―産児調節運動編11
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1385-9
- 第二回配本 ●二〇〇二年二月刊行
第24巻―優生問題・人口政策編10
第25巻―優生問題・人口政策編11
第26巻―優生問題・人口政策編12
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1389-1
- 第二回配本 ●二〇〇三年二月刊行
第12巻―産児調節運動編12
第13巻―産児調節運動編13
第14巻―産児調節運動編14
●揃定価＝七万五〇〇〇円十税 ISBN4-8350-1393-X
- 第九～二回＝二〇〇二年度＝三〇万円

不出版(株)
〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12
電話(03)3812-4433 ファクシミリ(03)3812-4464
振替001600294084
表示価格は、全て税別。
二〇〇一・六(二〇〇六・二)改